

貸し出し可能楽器の一覧と共に、今回はアンサンブルレッスンの聴講のご案内、それに、修復が完了した、イタリアンチェンバロについてご報告致します。

1° 貸し出し楽器（1ヶ月単位）

1 Double fretted clavichord 18th century German typell C ~ g3 2005/6年モデル ... oblique wrest pins, voiced (tapered in thickness) and normalized tangents, voiced natural key tops
13500円/月

なお、国産樺材によるtypellは2006年のno.3(冬ごろ)以降となりました。

type II 専用スタンド（マニュアル専用、音質重視デザイン） 1500円/月

2 Double fretted clavichord C~d3 8000円/月

3 Baroque pedalboard III 専用スタンドの上にクラヴィコード等を置いて使用します。なお、チェンバロの足の形状によっては、チェンバロの前に置いて使用することができます。組立て式専用スタンド、専用ベンチ付き 9000円/月

4 Triangular spinet C ~ c3 スタンド無し 5000円/月

5 18c English bentside spinet FF,GG ~ f3 試作品 9000円/月

6 Italian virginal BB~d3 9月ごろより 440/415 シフト可
after Queen Elizabeth's Virginals Venice ca 1570 13000円/月

2° Les amis de l'orgue avec basse d'archet et basse chiffree（仮称）
アンサンブルレッスン風景公開のご案内

小中学生の皆さん、あるいはアンサンブル、チェロ、ヴィオラ・ダ・ガンバ、鍵盤楽器によるコンティヌオに興味をお持ちの方へ

今まで、第4日曜日に主に17世紀の器楽アンサンブルの練習をしておりましたが、小中学生の皆さん、あるいは、アンサンブルに興味のある方、チェロやチェンバロ、オルガン等でのコンティヌオ初学者の方々へのご参考になる様、アンサンブル練習風景を公開する事としました。お気軽にご見学あるいはご聴講下さいませ、案内申し上げます。

日時 9月10日（日）コーチ 千成千徳 pm 2 : 30 ~ pm 5 : 30

於 絹ヶ丘一丁目会館 見学、聴講、無料。

曲目 Dietrich Buxtehude 1637 ? - 1707 Trio sonata III opera prima 1696
Dietrich Buxtehude Ciacona in e BuxWV 160 (7/23)
Antoine Dornel ca.1680 ~ 1765 sonates a violon seul
Dario Castello Sonata Concertante LibroSecondo Sonata decima (9/10)
Jean-Marie Leclair Ouvertures et sonates en trio op.13 Sonate I D dur (9/10)
等

編成 violino viola da gamba violoncello clavicembalo italiano (修復の終えたイタリアン
チェンバロを使用します) organo 等

曲目や楽器については変更になる場合があります。 ご了承ください。

入退場自由 上記練習時間内、いつでも入退場して頂いてかまいません。

予約は不要ですが、町内会館使用のため、町内での止むを得ない事情により、中止となる場合があります。 万一の場合に、電話等でご連絡したいと存じます。 事前にお電話またはファックス等頂けますと幸いです。

3° 今回修復を終えたイタリアンチェンバロについて

～～ 今、分かっている範囲で説明してみます。～～

この楽器は20世紀にイギリスで発見されました。 その時はすでに鍵盤は無く、響板も低音側の半分はありませんでした。 これを1950年代に Hugh Gough によって、また、2000年には Alan Gotto によって修復され、イギリスでコンサート等に用いられました。 2005年に日本に到着し、今年、宮城県のチェンバロ製作家、木村雅雄さんの元で、よりオリジナルに近い状態に再度、修復がなされています。 この修復では、ジャックと呼ばれる弦を弾く部分を、なしの木でヒストリカルな物に作り直し、また、2列あるジャックには鳥の羽より削ったつめを用います。

また、鍵盤の各キーの軽量化が計られます。 その2列のレジスターは日本への到着時 8 foot x 2 となっており、この仕様はそのままとしました。

この楽器のネームボードには Vincentius Pratensis IDLXXXIII と書かれています。 作者名のところは普通のイタリア語にすれば、Vincenzo da Prato です。 プラートはフィレンツェの近くの町ですが、プラートのヴィンチェンツォという意味です。 残っていた高音側の響板には 8 foot 2列分のブリッジピンがありますが、レストプランク（チューニングピンが打ち込まれる厚手の木）には 4 foot (1オクターブ高い)と思われるチューニングピンの穴の列があり、一時 8 foot + 4 foot の楽器であったと思われます。 音域は C/E ~ f3 となっています。 底板、響板、鍵盤、およびアウターケースはイギリスで修復時に付加されたものです。 スパイン、ベントサイド、チーク、テール等の側板はとても古いものの様に見えます。 なお、チークやベントサイドの厚みは 3 mm ほどしか無く、堅い針葉樹が用いられている様です。 全長 193 cm と小ぶりですが、高い倍音を多く含み、豊かに鳴る様な気がします。

(イギリスでの最初の修復時に取り除かれた、響板の高音部分とボックススライドの一部も楽器と一緒にイギリスから送られて来ました。なお、この響板を見ても、4 foot のヒッチピンの跡、4 foot のブリッジの跡があります。)

〒192-0912 八王子市絹ヶ丘1-38-1 山野辺暁彦
tel/fax 042-635-3784